

しょう 障がいについて 理解と配慮 り かい はいりょ

しょう だれ しょう う 障がいは誰にでも生じ得るものです

びょうき じこ お 病気や事故はいつ起こるかわかりません。

どうよう しょう だれ しょう う 同様に、障がいはいつでも誰にでも生じ得るものなのです。

しょう たしゅ たよう おな しょう いちりつ 障がいは多種多様で同じ障がいでも一律ではありません

しょう しゅるい ていど さまざま おな しょう しょうたい いちりつ 障がいの種類も程度も様々であり、同じ障がいでも、その状態は一律ではありません。

しょう ふくすう ばあい また、障がいが複数ある場合もあります。

がいけん しょう 外見ではわからない障がいもあります

しょう たしゅ たよう がいけん しょう 障がいは多種多様であり、外見だけでは障がいがあることがわからないこともあるため、しゅうい りかい くる ひと 周囲に理解されず、苦しんでいる人もいます。

じょうほう きょうゆう い し そつう 情報共有や意思疎通をしましょう

ひつよう じょうほう おんせい もじ しゅわ ひと あ さまざま 必要な情報は、音声・文字・手話など、その人に合った様々なコミュニケーション手段を使って提供しましょう。

あいて いこう ひつよう おう ひと あ しゅだん つか 相手の意向や必要に応じて、その人に合ったコミュニケーション手段を使って、「ゆっくり」「はっきり」「簡単な言葉で」「ていねいに」「繰り返し」伝えましょう。

かいじょしゃ 介助者がいても

かいじょしゃ ほんにん はな 介助者ではなく本人に話しかけましょう。